

第11回市民懇話会意見まとめ（H28.1.30）

条文の内容について

- ・「子ども」に関しては、「市民の権利」の項目に記載がある一方、「市民の責務」、「行政の責務」には記載がない。何か記載する必要があるのでは
同様に市民参画を得てつくられた「子どもの育ち支援条例」に具体的記載があるため、ここではあえて権利として規定すべきことだけを載せている（事務局）
- ・「地域コミュニティ」は、地縁を中心とするものというイメージがあるが、ここではあえて“地域”コミュニティという言い方をする必要はあるのか。わかりやすくなるよう表現の整理が必要だと思う。若者が一般的に言う「コミュニティ」とは地域を指していないことの方が多いと思う
- ・コミュニティがこれから変わっていかないといけないということを表す方が良い（条例に盛り込めるかどうかは別だが）
- ・「附則」の主語が「市長」になっている。市民もチェックできるようにすることが大事
- ・前文だけでなく、条文全体として格調高く、つくる意味や意気込みを盛り込んでいければ良い
- ・条文としては表せないことは、逐条に思いを盛り込んでいくことができる

条例の位置付けについて

- ・自治体の憲法と謳っている自治体もあるが、どのように捉えているか
あくまで一条例という扱いであり、上位下位の考えはない（事務局）
- ・義務付けなどの規制を定める他の条例と違って、この条例は理念的なことが書かれている。他の条例とは性格が違うものである（名倉先生）

条例の策定意義について

- ・条例ができれば市民生活はどのように変わるのか
何かが大きく変わるものではないが、策定後の取り組みが重要だと考えている。パンフレット等で広く市民に周知をしたり、教育を通じてシチズンシップについて考える機会を持てる環境をつくるなど。一方で行動規範として行政を一定縛るものとなるため、それには大きな意味があるものと思う（事務局）
- ・条例が制定されれば、条文を根拠に強硬に意見を言う人も出てくるかもしれない。悪用されないよう考慮してつukらないといけない

「尼崎らしさ」について

- ・「尼崎らしいまちづくりのルール」と言っているが、「尼崎らしさ」とは何なのか。社協、自治会に関する事なのか、それともマナーの悪さとかそういう事なのか
- ・言わんとするところは盛り込まれているが条文において「らしさ」を出すことはなかなか難しい
- ・市民がこの条例をPRしていく。そうした中で「らしさ」が出てくるのではないか
- ・今この場で尼崎らしさを考えることは難しいと思う。出来ないことを言うよりも、今から策定までのそれ程時間がない中で何が出来るかを考える方が良いのではないか

社協について

- ・条文の中にこれまでの意見交換でよく出ていた社協や自治会といったことが書かれていない。「市民」という言葉に全て含まれるのはいかがなものか。行政は普段地域におらず、実際には社協などの団体が地域のことを担っている
- ・将来的なことを考えると社協、NPOなど具体的な名称を書き込むと、それにとらわれてしまう可能性があるのでは難しいのではないか
- ・現状、行政にとって社協の存在は欠かせないものである。そこは避けて通るのではなく、あえて物議を醸す必要があるのではないか
- ・社協の役割は、地域自治に関する事だけではない中でどのように考えていくかが難しい
- ・現在、社協も過渡期だと思う。地域自治を担っている現状がある一方、機能していない部分もある。また社協とNPO等との相互理解の不足などの課題もある
- ・佐璞丘の再生事業は、社協だけでなく、色んな団体が協力して行っている。今後も本市の特色を踏まえて行っていく必要がある
- ・社協への加入を義務付ける（市民＝社協の会員）ことが必要ではないか
- ・加入を義務付けるとなると、尼崎市に住みたくなくなる人も多いのではないか

条例策定後の取組について

- ・条例ができてからこのメンバーで何かできれば。条例の精神を広げていけるような取組を考える
- ・堅苦しくならないよう、市民に上手く伝えていきたい。この懇話会が1つのコミュニティであると思うので、このコミュニティを使い、様々な情報発信ができれば良いと思う
- ・条例制定後はマンガ等を作ってわかりやすい形で周知していくことが大事。子どもに受けるように何かキャラクターを作るのも一案である
- ・小さい頃から触れられるようなもの（歌など）をつくるのはどうか。何のために条例を

つくったかということを広く伝えていけるかどうか。広げていくことと合わせて、自分のフィールドでどのように生かしていくかも考える

その他

- ・色んな人と話し合うことで色んなことが生まれてくる。市民懇話会もその1つである
- ・「～しなければならない」という内容は反発を生んでしまう。押し付けでは意味がないので、気付いた人間が周りに広げていくということが一番重要だと思う
- ・地域における優れたまちづくりの取組をいかに広げていくかということは行政の役割である。地域の人が他の地域に広げていくことは難しい
- ・市民が市役所で「窓口体験」などを行うことも良いのではないか（民間体験の逆バージョン）。実際に体験してみると気づくことも多いかと思う